

SPODが及ぼす組織変容の研究～SPOD講師派遣事業の効果検証分析～

キーワード：カークパトリックの4段階（反応、学習、行動、結果）

高知大学 大学教育創造センター 塩崎俊彦・杉田郁代・立川明

問題と目的

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以降はSPODと表記）」は、四国地区の32の国公立大学・短期大学・高等専門学校によって構成されている。設置目的は、質の高い教育を提供するため、4県に位置する「ネットワークコア校」を中心に、加盟校が協力・連携して、教職員の能力開発（FD・SD）につとめること。それにより、資源を共有することで、加盟校は、単独の組織ではなしえなかったプログラムやサービスを楽しむことができる。また、ネットワークの活動を通じて、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった「高等教育のプロフェッショナル」を四国から輩出することを目指している。

本研究の目的は、**SPODが行う事業によって、加盟校にどのような組織変容を及ぼすかについて、明らかにする**。本発表では、その第一段階としてSPOD講師派遣プログラムのアンケート結果から、SPODが及ぼす組織変容について、カークパトリックの研修成果4段階評価を基に段階評価の定義づけを行い、効果の分析検討を行った。このプログラムを選定した理由は、SPODフォーラムと比較すると加盟校で開催されることから、参加人数が多く組織変容に及ぼす効果が高いと考えたからである。

調査対象・方法

調査対象は、平成25年度～27年度に実施された「SPOD講師派遣事業についてのアンケート調査」である。その中の設問「**SPOD内講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか**」という質問項目のFDプログラムを分析の対象とし、検討を行った。回答校の属性と対象は左記に記す。回答を**カークパトリックの4段階評価**を基に、本研究に照らし合わせて分類を定義しなおし、検討を行った。

表2 回答校の属性（学校種・設置者）

属性	n
H25 公立・大学	3
高等専門学校	2
私立・大学	4
私立・短期大学	3
H26 公立・大学	3
高等専門学校	6
国立・大学	2
私立・大学	3
私立・短期大学	3
H27 公立・大学	2
高等専門学校	4
私立・大学短期大学	4
私立・短期大学	3

表1 カークパトリックの4段階評価

レベル	名称	測定内容と項目
1	Reaction (反応)	理解度、満足度の表記
2	Learning (学習)	知識、スキルの習得度の表記
3	Behavior (行動)	現場での活用度、行動の変化
4	Result (結果)	行動変容後の結果の表記

調査結果

「講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか」という項目をカークパトリックの4段階評価を基にした分類に分けて検討を行った。分類方法は、次のように4段階を定義した。レベル1（反応）は「講師派遣事業の内容の理解度と満足度が表記されている」、レベル2（学習）は「講師派遣事業による知識・スキルの習得度が表記されている」、レベル3（行動）は「講師派遣事業による学習内容が現場で活用されている活用度や教員の行動変化が表記されている」、レベル4（結果）は「講師派遣事業後の行動変容に関わる結果が表記されている、変化後の結果が表記されている」と定義した。結果は、レベル1（反応）は8（19%）、レベル2（学習の表記）は10校（23%）、レベル3（行動レベルの表記）は19校（45%）、レベル4（行動変容後の結果表記）は2校（4%）、変化なしは3校（7%）、レベル該当なし1校（2%）であった。アンケートの回答の91%は、派遣事業により成果や変化があったと回答していた。

表3 事業の受講者総数とフォーラム参加者数の比較

	講師派遣事業の受講者総数 (FD研修受講者)	SPODフォーラム参加者数 (教員のみ)
平成25年度	540	112
平成26年度	500	112
平成27年度	387	130
合計	1427	354

回答記述から、具体的に成果や変化の内容について、記述事例の一部を挙げる。

【レベル1】

- 「参加者アンケートで、参加教員24人で回答教員19名のうち12名が「とてもよかった」、7名が「良かった」と回答している。次年度も講師派遣による研修の希望が出ている。」（公立・大学）

【レベル2】

- アンケート結果からも「授業に生かせる内容だった」、「必要な知識・スキルを身に付けた」、「業務への取り組みが改善される」は高い肯定的な回答を得ている。（高専）

【レベル3】

- 組織的な変化は見当たりませんが、個々の教員が学生の理解を促すための工夫を意識するようになり、なかには早速後期の授業から改善を図る教員も見られました。特に、現状の欠点ばかりに気を配っていた教員にとって、どのように改善を試みればよいのか、その糸口を得ることができたようです。（私立・短期大学）

- 平成27年度の講師派遣事業は、「今すぐ役立つ授業Tipsアクティブ・ラーニングのスタート」というテーマであり、授業に取り入れ易い手法については、すでに授業で試行的に実施している教員もいる。（私立・大学）

- 事業の受講により、授業力のUPや授業改善に取り組む教員が増えている。この成果を検証し、さらに参加者を増やしていくことが課題である（私立大学・短期大学）

- 昨年度からアクティブ・ラーニングの考え方や手法を学ぶための研修をSPOD講師派遣事業を利用して続けてきた。これらの研修によって多くの教員が少しずつそれぞれの授業の中にアクティブ・ラーニングを取り入れるようになってきている。また、SPOD講師派遣事業の研修をきっかけにさらに学外の研修に参加してより深く学ぼうとする教員も増えた（高専）

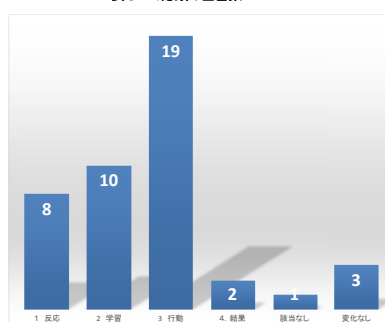
【レベル4】

- SPOD講師派遣事業に頼りっぱなしでしたが、そこから得たものを生かして、今年度は学内の教員を講師としたFD研修会を開催することができた（私立・大学）
- 授業評価で良いコメントがあった（公立・大学）

表4 本発表の研修成果の分類定義

レベル	定義	測定内容と項目
1	Reaction (反応)	講師派遣事業の内容の理解度、満足度の表記
2	Learning (学習)	講師派遣事業による知識、スキルの習得度の表記
3	Behavior (行動)	講師派遣事業の内容の現場での活用度や教員行動の変化の表記
4	Result (結果)	講師派遣事業後の行動変容後の結果の表記

表5 4分類の回答数



考察

本発表で明らかになったことは、SPODが組織変容に及ぼす効果の一つとして、**教員への影響**である。講師派遣プログラムの特性の一つとして、教員の授業力向上や授業改善につながり、つながっていることが明らかになった。また、**組織という側面では、教員組織への影響が示唆された**。特に、授業に関わる授業設計やシラバスの書き方、学習に関する理論、協同学習・グループワーク・TBLは教員が参加したい研修テーマとしてニーズが高い¹⁾ことから、提供されるプログラムはニーズとマッチングしていると考えられる。このことから講師派遣事業は、教員が求める授業改善の関わる知識を提供することにより、**教員組織への意識と行動変容を含めた効果が期待できる**。また、坪井・松本（2009）²⁾が指摘するように、大学間ネットワークを利用することは、持続的な授業改善システムを構築することが期待できる。SPODの講師派遣事業は、教員の授業改善ニーズとマッチしているとともに、1年に1回程度の定期的な派遣により、持続可能な研修制度を提供でき、教員組織の変容を促す役割を担っていることが示唆されたと言える。

【引用文献】

- 1) 誠開祥子・大竹奈津子・佐藤浩章・山田剛史・吉田博・保野秀典 『大学・短大・高専教員の研修ニーズとFDの課題』 大学教育研究ジャーナル 第10号 2013年
- 2) 坪井泰士・松本高志 『高専における持続的授業改善システムの構築』 大学教育研究ジャーナル 第7号 2010年